

高齢者がペットを飼う意思決定

看護情報学 特論 I

2016.6.30

公衆衛生看護学 上級実践コース

藤川真梨

犬を飼うか悩むAさん（70代）

最近することもなく寂しいし、犬を飼いたいなあ

自分が先に死んでしまったら残された犬はどうなってしまおうのだろう

自分の先が長くないのに犬を飼えるのだろうか…



医療とペットの関係

【アニマルセラピー】

「動物との触れ合いで、人々の心を癒す」活動

- AAA (Animal Assisted Activity) 動物介在活動
- AAT (Animal Assisted Therapy) 動物介在療法
- AAE (Animal Assisted Education) 動物介在教育

● ペットを飼うこともアニマルセラピーの一種

ペットを飼っている人は飼っていない人より、年間20%前後病院に行く回数が減ったと言うデータがある。

ドイツでは7500億円、オーストリアでは3000億円もの医療費が、ペットの影響によって削減されている。¹⁾

1) NPO法人日本アニマルセラピー協会より

犬を飼うか悩むAさん（70代）

最近することもなく寂しいし、犬を飼いたいなあ

自分が先に死んでしまったら残された犬はどうなってしまおうのだろう

自分の先が長くないのに犬を飼えるのだろうか…



現状

- ・平成25年 動物愛護管理法改正

飼い主の責務として終生飼育の原則が加えられた。

→【保健所や動物愛護センター】

飼えなくなった動物の引き取りを拒否することができるように

→【ペットを飼う側】

「自分のトシを考えると、この子を最後まで世話ができないなら」

という理由でペット飼育をあきらめる高齢者が増え始めた

現状

一人暮らしの高齢者を対象にした 「単身高齢者の介護準備に関する調査」レポート

■自分に介護が必要になったときのための準備状況（複数回答）



「ペットの世話の依頼先や
引き取り先を検討する」が
第**3**位

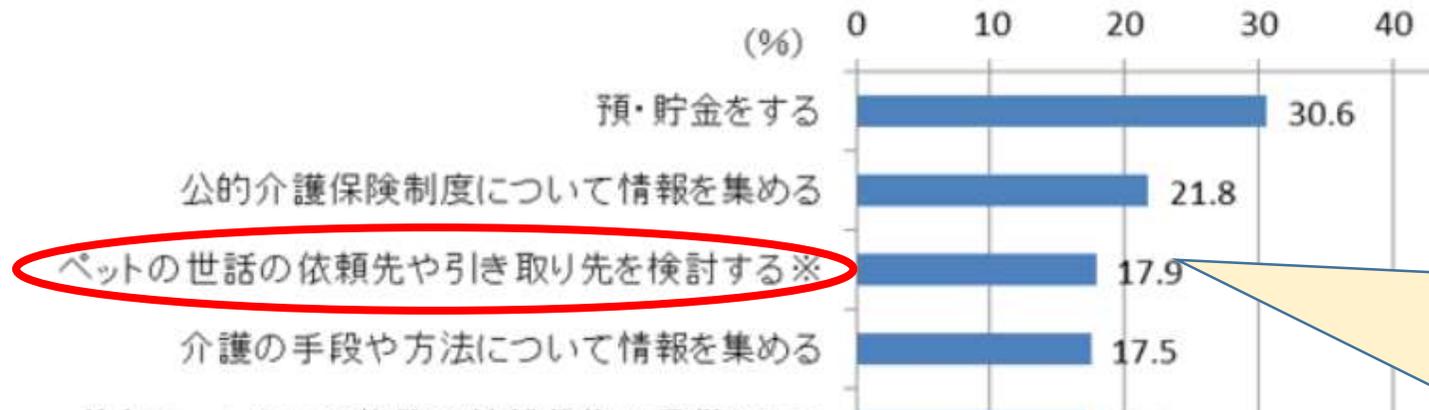
▲第一生命経済研究所（2014. 05）調べ ※ペットを飼育する84名に占める割合

引用：ペットとシニア世代の関係
<https://299navi.com/topics/petlifenet/307>

現状

一人暮らしの高齢者を対象にした 「単身高齢者の介護準備に関する調査」レポート

■自分に介護が必要になったときのための準備状況（複数回答）

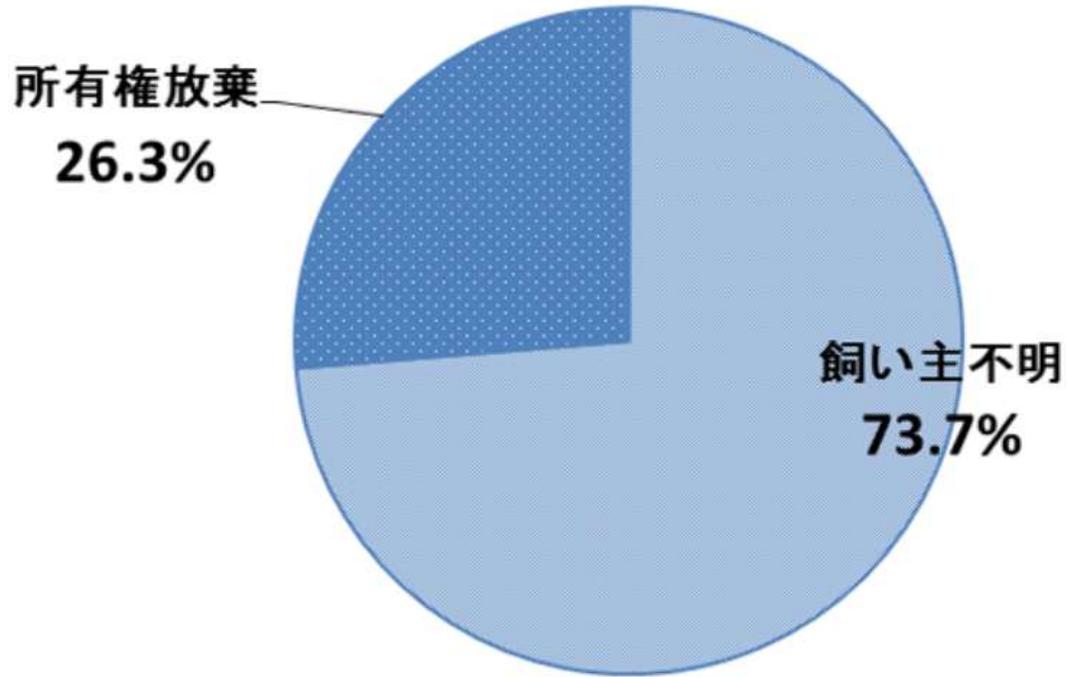


「ペットの世話の依頼先や
引き取り先を検討する」が
第**3**位

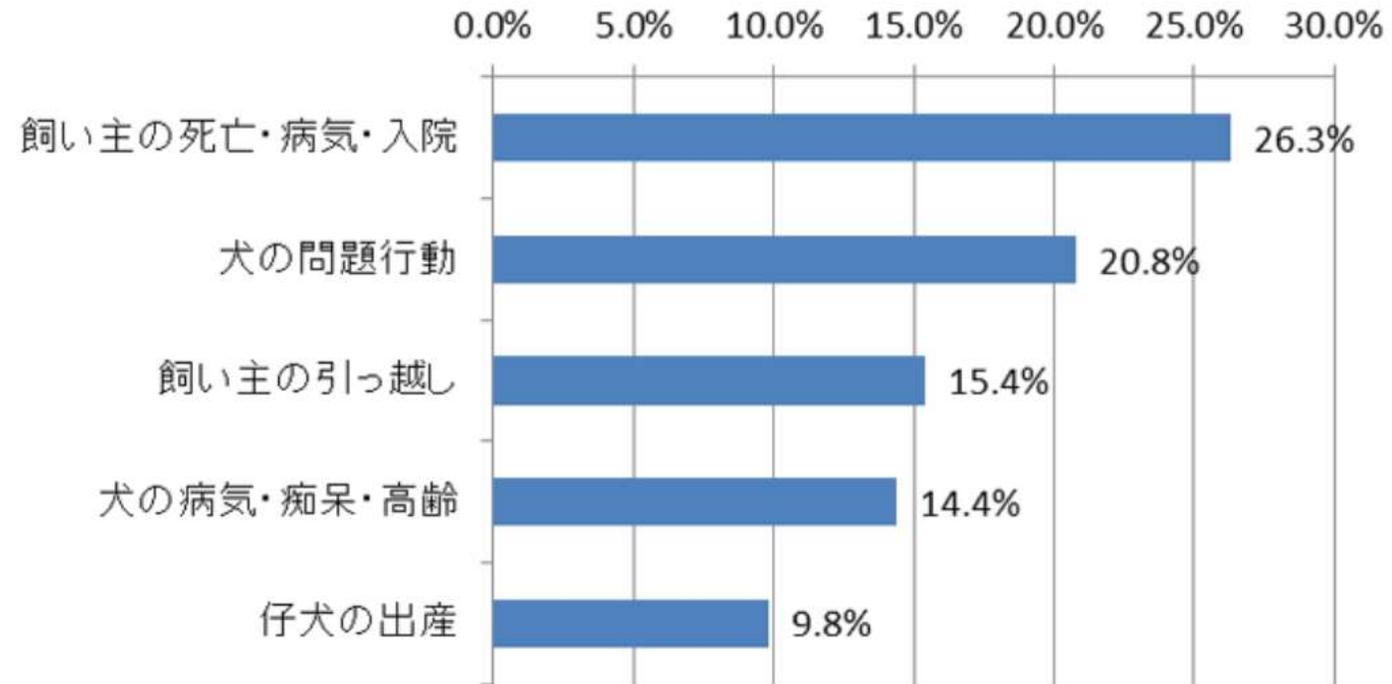
ペットを飼っている単身高齢者の場合、
自分自身の介護に向けた準備に加えて、
自分に介護が必要になった場合のペットの行く末も重要な
準備項目になっている

所有権放棄の問題

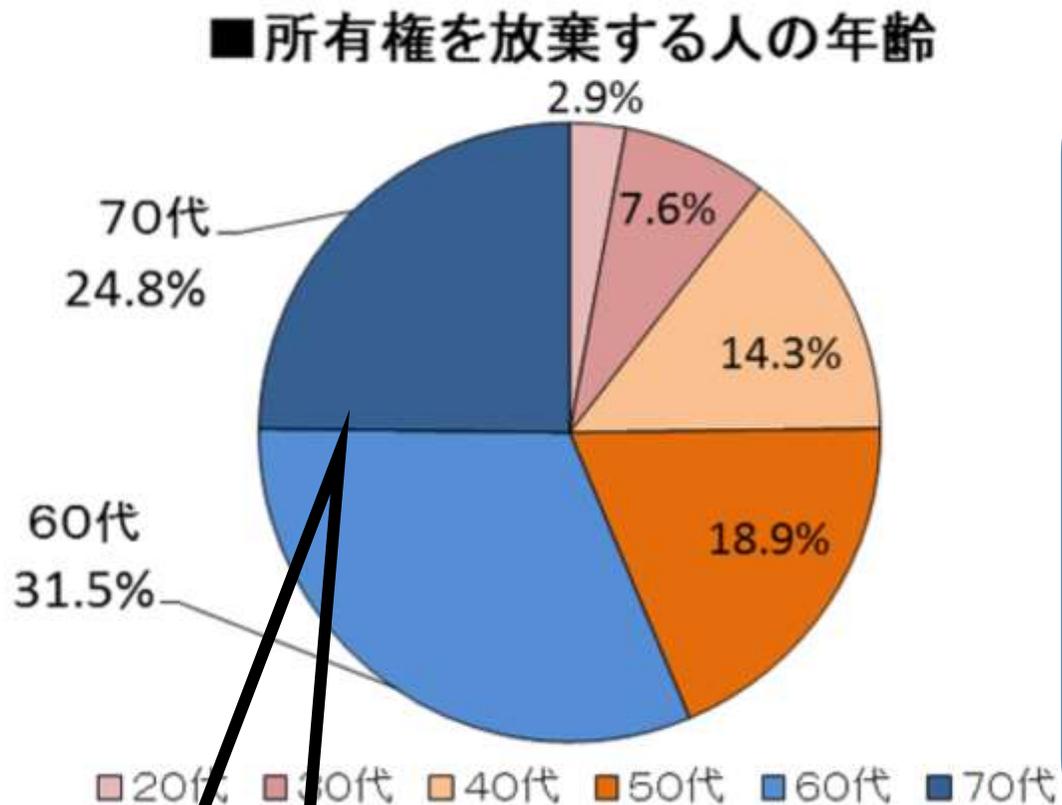
■保健所・愛護団体が犬を收容した理由



■所有権放棄の理由



所有権放棄の問題



60代以上が
56.3%

考察

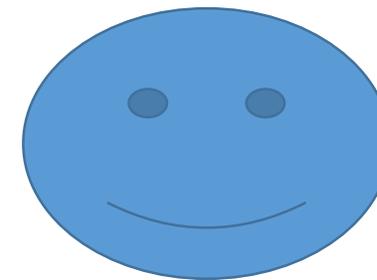
- ・ 飼い主の死亡・病気・入院の多くは60代以上の高齢者由来
- ・ 年齢が高くなり体力が衰えるにつれ小さなきっかけでも所有権放棄に至る可能性が高くなる

高齢者のペット飼育に対するサポート体制

【老犬ホーム】

- 高齢になり痴ほうや徘徊、夜泣きなどの問題行動がみられるようになって飼い主だけでは世話しきれない愛犬を預けられる施設
- ペット産業の新たなサービス！
- 入所料、終生飼育費用、医療費を飼い主より預かり、犬を引き取る
- 犬は、老犬ホームの施設内で終生飼育され、飼い主による面会や外泊も可能

愛犬が若年期であっても、病気療養など飼い主の急激な環境変化の発生や高齢の飼い主の将来に向けての備えとして、老犬ホーム等を検討している様子が見えてくる（老犬ケア <https://www.rouken-care.jp/research/tenants201603/>より）



高齢者のペット飼育に対するサポート体制

【ペットに遺産をのこす】

・遺言

ペットは遺産相続人になれない

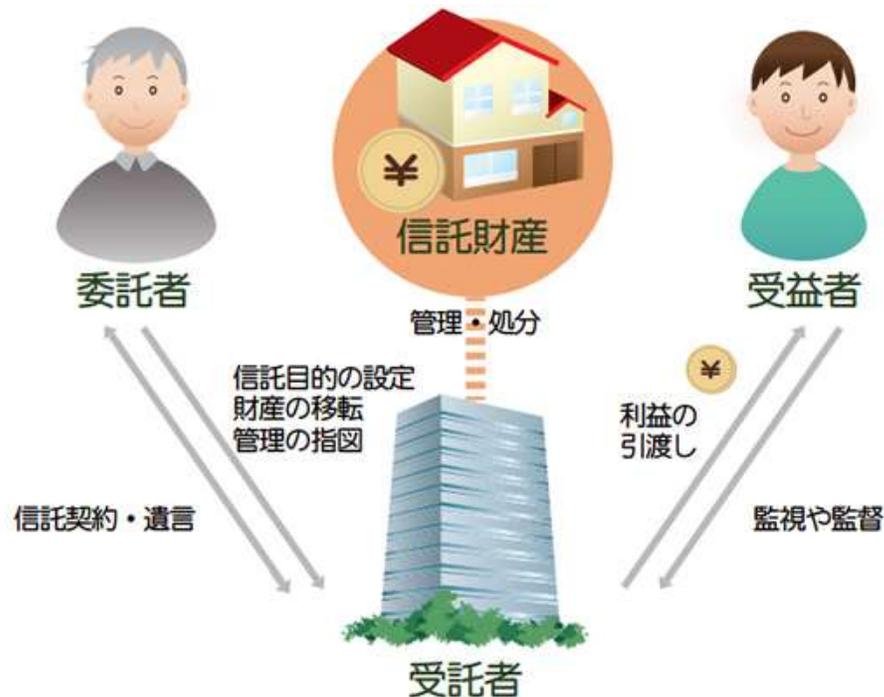
→負担(ペットの世話)付き遺言書という方法

※遺言執行者の指定も重要！

高齢者のペット飼育に対するサポート体制

【ペットに遺言をのこす】

・「信託」をつかう



委託者（ペットの飼い主）が信託契約を結ぶ際に、契約を開始する条件をつけることができる



遺言が発生する前から
財産管理ができる！

まとめ

- 高齢者がペットを飼う際には、自分の年齢や体の状態を鑑みて、最後まで世話できないかも知れない…と躊躇してしまう状況がある。
- 意思決定の際には、高齢者のペット飼育をサポートする様々なサポート体制を知ったうえで、自分の状況と照らし合わせて飼うか飼わないか考えるべき
- そのために、高齢者の周りにはいる私たちが情報を知り、悩んでいる高齢者に提供できるようにになりたい

参考文献

- ・NPO法人日本アニマルセラピー協会、<http://animal-t.or.jp/animal-assisted-therapy/aat01-what-is-animal-assisted-therapy/>
- ・ペット、犬とのお出かけスポット口コミ情報【299navi】▼トピックス
▼ペットとシニア世代の関係、<https://299navi.com/topics/petlifenet>
- ・老犬ケア、<https://www.rouken-care.jp/research/tenants201603/>
- ・犬の飼育放棄問題に関する調査から考察した飼育放棄の背景と対策、奥田順之ほか